


有栖山公園通信

其乃式拾一

平成貳拾年十二月三〇日（コミックマーケット75）
有栖山公園 (<http://www.aliceyama.jp/>)
有栖山 葡萄 (budou@aliceyama.jp)

有栖山公園は「かもすぞジャパン」を応援しています 

2008年師走 有栖山葡萄拜

はじめまして&おひさしぶり、本日は御立寄りいただきありがとうございます。
「有栖山 葡萄」と申します、しがない二次創作小説書き同人屋にございます。
まずはお詫びを。
今回お届けする予定だった新作は間に合いませんでした、本当にごめんなさい。前回のペーパーで「夢幻」の焼き直しと言っていたのですが、なかなか難しく全然筆が進まない。と思ってもう一つ書いていた作品も表に出せるクオリティーではない。ということで今回は無念の新作なしの参加となりました。いつも楽しみに来てくださっている方々の顔が浮かびながら、このような形になってしまったこと大変悔やんでおります。次回夏コミではきちんと新作をお届けできるようがんばります。「君望 NovelSeries」10作目はどんな形になるのか、皆さんのご期待に添えるようがんばります。
さて、ヤンデレ関係のお客様向けに。
ヤンデレアンソロジー「属性y d」はいかがでしたでしょうか？ 様々な作家が綴るヤンデレ話は、まさに百花繚乱といえるすごいできになっているかと思えます。次回企画も水面下で進行中です、ご期待ください。
次回イベントは、ヤンデレオンリー「病み鍋PARTY 4 (09/05/17 予定 川崎市産業振興会館)」に参加予定です。ヤンデレアンソロジー「属性y d」の新作、そしてアイマスヤンデレ合同誌など盛りだくさんの企画で皆様におもしろい作品をお届けできると思えます。
フォントが寂しいのは、クリスマスに流行ったメッセ感染ウイルスを踏んでOS再インストールorz
それでは、またどこかでお会いしましょう。

僕は恋をしない。
この言葉は半分正しくて、半分間違ってる。
正しい部分は僕の身に今まで降りかかった、三度続いた出来事が原因だった。
一度目は幼稚園に通っていた頃、僕は初めて女の子を好きになった。活発で明るく、みんなの中心になって遊んでいる彼女のこと気がなまって、気がつくまで追っていた。
恋人ごっこみたいなのが流行ったのはちようどその頃で、あちこちで「誰々が好き」みたいなことを言っている。そして僕も彼女に告白しようと思っていた。
だけど告白はできなかった。
告白しようと思った日、彼女は幼稚園に来なかった。園では「体調を崩して休んでいます」と説明されたが、その翌日もその次の日も彼女は来なかった。
そして三日目、近くの河原で彼女の死体が見つかったことを母親から聞いた。大人たちは彼女が行方不明になっていることを、僕たちには知らせていなかった。彼女が居なくなったことは悲しかった。だけど自分が泣いたのか、よく覚えていない。急にいなくなってしまうことへの戸惑いの方が強かったのかもしれない。このとき僕はまだ、恋というものをよくわかっていなかったのかもしれない。
次は小学三年の時。同じクラスに気になる子ができた。僕のが好きなのか、明るい彼女はみんなに慕われていた。そんな彼女に惹かれていって、彼女のことが好きなんだと思い始めた。
僕の周りの男子何人かが彼女のことを好きだと言っているのを聞いて、他の誰かと彼女がつきあってしまうことになるんじゃないかと僕は焦った。だから誰かに先を越される前に告白しようとした。
だけどこのときも告白できなかった。
理由は幼稚園の時と同じ。違うところがあるとすれば、彼女

が見つかったのは一週間後で、行方不明になったことを事前に聞いていたことだろうか。
クラス全員で彼女の葬儀に行ったとき、みんなが泣いていた。僕もたぶん泣いていたと思う。好きな子がいなくなったんだからそれは当然のことだろう。
だけどこのときすでに、僕は妙な違和感をすでに感じていた。
三度目、中学一年。
小学校とは学区も変わり知らない人たちとの出会いがあった。それに部活に入ってなくても、委員会で先輩などと交流する機会はいくらでもあった。そしてまた僕は気になる人を見つけた。
三年生で風紀委員長、厳しいところもあるけどからっとした明るさで生徒会長より人気のある人だった。押しつけられた風紀委員の仕事は彼女と会える楽しい時間となった。一年男子の間で「あねさん」と呼ばれる位に有名な彼女に告白するなんて無謀だと思っただけで、玉碎覚悟で挑もうとした。
しかし、また告白できなかった。
今度も行方不明のあと、河原で彼女は発見された。
警察の捜査もむなしく、いまだ犯人は見つかっていない。そしてほぼ四年おきに起きている事件に、マスコミは「オリンピック殺人」と中学生ですら不謹慎と思える記事で紙面を賑やかしていた。
だけど僕にはその三つの事件のサイクルが四年だと言うこと以上の、深い関連性を知っていた。偶然では済まされない関係性を、僕自身に関わるものを知っていた。
僕は探偵じゃない、だから彼女たちのことを殺した犯人を捕まえることなんてできない。だけどただ一つだけできることがある。それは、これ以上被害者を増やさないこと。
だから僕は恋をしない、そう決めた。
これが半分の正しい部分、そして残り半分の間違っている部分がある。
それは「恋をしない」のではなく「恋をできない」ということ。事件とは関係なく、高校に入ってから僕の周りには好意を持てるほどの距離に女性が寄りつかなくなっていた。
理由はたぶん僕の後ろに最近感じる、奇妙な影が関係しているんだとおもふ。